第１６号
発行　平成２０年９月３０日
茨城県立図書館
ボランティア協議会広報委員会
文責　黒沢　英宣

輝 かがやき

目 次

1 入館者６００万人達成!!
2 ボランティアの皆様とともに
3 「２４時間テレビ」から録音機器寄贈される
4 つくば市立中央図書館を訪ねて
　－代読、児童、図書修理の分科会から－
5 児童サービス研修会
　－こころ豊かにこれからの日々を過ごすには－
6 エプロン･シアター？
7 ご存知でしたか？
8 代読サービスボランティアの紹介
9 これからの行事案内
10 編集後記

平成 13 年 3 月の新館開館以来、2,709 日目の平成 20 年 8 月 22 日（金）に入館者が 600 万人に達しました。

茨城県立図書館は、600 万人目の水戸市立千波中 1 年の渡辺将太君に記念品を贈呈しました。

2　ボランティアの皆様とともに

茨城県立図書館　ボランティア協議会
会長　加藤　忠司

　このたびボランティア協議会会長をお受けすることになりました（代読及び児童サービス所属）。

　福田前会長の業績とお人柄がご立派でしたので、後任をお引き受けすることに抵抗がありました。図書館には旧館時代から新館の現在まで、ほぼ 50 年のご縁もあり、恩返しをする機会でもあると思い、お引き受けすることにいたしました。

ボランティア協議会は、図書館とともに発展、充実してまいりました。これからも皆様のご協力をいただき、図書館の発展に少しでも役立っていきたいと考えております。

3「２４時間テレビ」から録音機器寄贈される

　去る９月１１日「２４時間テレビ」チャリティ委員会(日本テレビ)より、障害者サービス用機器として、デジタル録音図書作成用機器一式が茨城県立図書館に寄贈されました。代読サービス録音班では有効に使用いたします。

　今までに作成した録音図書(作成中のものも含む)は、次の通りです。

「祖国は国語」　藤原正彦著
「ももこの話」　さくらももこ著
「モタさんの明るく生きるヒント」　斉藤茂太著
「かたみ歌」　朱川湊人著
「帰りたかった家」　青木玉著
「無口な友人」　池内紀著

4 つくば市立中央図書館を訪ねて

6 月 11 日 29 名でつくば市立中央図書館を訪ねました。

◆代読サービスボランティア分科会

中央図書館では視覚障害者の対面朗読は利用者が皆無なので行っておらず、24 名のボランティアが週間タウン誌「常陽リビング」を「声の常陽」として録音し、利用者に配布したり、点訳絵本を年間 10 冊程度制作する等の活動を行っている。

加えて、録音デイジー化に取組んでいる状況などを聞いた。当方からも対面朗読の現状やデイジー化への取組み状況などを説明、今後も互いに交流を図っていきたいなど、和やかな雰囲気で意見の交換を行った。

〔代読サービス　加藤 忠司〕

◆おはなしグループ分科会

さすがに県南の発展著しい学究都市を示す立派な図書館。待ち受けておられたボランティアの女性方も研鑽を重ねられたベテランが勢揃い。はじめて耳にした「おとなを対象のおはなし会（おとなに童話を語る集い)」、毎月 1 回 2 時間をかけてのグループごとの自主研修勉強会、図書館でのおはなし会は毎週土曜日午後 3 時から 30 分だけだが、グループごとに小学校、保育園、幼稚園にでかけ、各クラスにひとりずつが演技をしている状況。つくば側の現況を伺うごとに、いささか感服した次第。それぞれのグループメンバーが近隣地域居住という利点を活用しての研修と活動とは羨ましいことだった。わが児童サービスの研修会へのお招き、つくばのおとなおはなし会への参加など、相互交流を約束して、意義ある集いを終った。

〔児童サービス　上條 哲〕

◆図書修理分科会

つくば市立中央図書館のボランティアの方とは、以前より交流があり、最初から有意義な意見交換ができました。以下は、参加した修理ボランティアの感想です。

・私の修理経験は、つくば市立中央図書館で教えて頂いたのが始まりです。せまい場所でやたらテープばかり貼っていたような気がします。とてもなつかしい気持で参加しました。

・「本が泣いています」という展示は、本のこわれる所が解ってもらえるので、よい展示だと思いました。

・今回の見学会に参加して、我が「図書修理」の「技術とチームワーク」は、すばらしいと思いました。

・モダンな間接照明の図書館でした。

・ボランティア活動は、ボランティアが企画し、それを図書館が全面的にサポートするというしくみになっており参考になりました。

・試行錯誤しながら技術の向上をめざしていますが、これからも他の図書館ボランティアと技術の交流をして行きたいと思いました。

〔図書修理　是枝 忍〕

5　児童サービス研修会

－　こころ豊かにこれからの日々を過ごすには　－

8 月 2 日　県立図書館視聴覚ホールにおいて
共同主催：茨城県央高齢者はつらつ百人委員会
講師：渋谷 照夫氏―東京学芸大学大学院終了、1975 年水戸市に生涯学習の学園「のびる学園」を創設、その後、ひたちなか市に移転。高名な心理学者　波多野完治・勤子両博士を敬服し師事、生涯教育（学習）の理論と実践を学んだ。フリースクール「伸友社」を開設、1998 年からひたちなか市社会教育委員

講演の概要は講師の提言「おとなが変われば子どもも変わる」に基づいた話でした。

青少年に対する大人の意識の変革―おとながどのように変わればよいのか

①子どもに、心のこもった挨拶をしよう
②子どもに（かっての寅さんのように）気軽に声をかけよう
③子どもに対して、よく聞き、口出しは控えめに、優しい眼でみつめよう
④子どもを叱る時の「叱り方」を変えよう（ほめると叱るとの両方を大切に）
⑤勇気を出して大人は自分の間違いをみとめる
⑥親子で一緒に食事をとろう（特に夕食を）
⑦子どもに本気になって味方する
⑧子どもを本気で愛する態度をとる
⑨子どもに気まぐれな態度をとらない
⑩国民が幸せになれない日本のシステムを大人が率先して変える努力をする

感 想　新聞、テレビでは少年犯罪、20 歳前後の青年の親族殺害などの日頃の報道にはあまり驚かなくなったような事件が頻発しています。このような情報を知るにつけても、こどもたちとの心の交流はより大切だと痛感します。三つ子の魂百までも・七歳までの子育てと育児のスキンシップが人生を左右すると伝えられます。児童サービスの一同は親の代わりの指導育成をなどと、そんだいな気持ちで活動しているのではありません。せめて、私たちの演技、話を見聞きする幼子、児童の心が自然に心豊かに育成され、よりよい日本人に成長できるように、多少なりとも、力添えになればと考えています。講話では常に回りに活動している子どもたちとの接点について、認識を改めることを要するのではと勘案された言葉の数々でした。さらにさまざまな社会経験を重ねてきた多くの大人たちと、日頃接しておられる渋谷先生が上記提言に基づいて、ご自身の身体から搾り出されてくるような生きたお話でした。

〔児童サービス　上條 哲〕

☆☆ 6 エプロン・シアター？ ☆☆

耳慣れない言葉ですね。「エプロン・シアター」はやはりエプロンを使います。ただしエプロンのあちこちのポケットに動物、植物、おじいさん、おばあさん、少年、少女たちのひらべったい人形が入っていて、これを順番に、あるいは交互に、お話、歌にあわせてエプロンの表面に貼り付けて、ストーリーを展開していくエプロン上のミニミニ劇場です。絵本朗読、紙芝居とひと味違った立体的な演技です。ご自分のアイデアの手製で励んでおられる方もありますが、既製品もあって、中々よく

出来ています。幼児や低学年児童には喜ばれるものです。ただし、演技者が女性に限られるとは申しませんが、後期高齢者の爺様の演技では子どもたちが歓迎してくれないのではと・・・・・

〔児童サービス　上條 哲〕

7 ご存知でしたか？

手当たり次第活字をおっているような読書をしている私なので、この本は前に借りたことがあるような無いようなおぼえているところは、ところどころ、何度読んでも新鮮。

そんな私が少しは恩返しができるかとボランティアに参加させていただいて、図書館内で、たくさんの色のエプロンに気づきました。お聞きした所 3 色のエプロンがあり、ベージュとエンジの色が職員用で、汚れたら取り替えるのだそうです。ボランティアはグリーンですね。また、研修に来る中学生にはエンジ、大学生にはベージュを貸与しているそうです。

我らが図書館では、県民の読書活動や自主的な学習・調査活動を支援するために様々なサービス及び事業を実施しています。昨年度の開館日は 290 日で、83 回の催し物を開催し、8 月 22 日に記録的な入館者数 600 万人を達成しました。我々ボランティアもグリーンのエプロンをつけてできるだけ催し物などに参加し、活動したいと思います。

〔広報　土屋 純子〕

8 代読サービスボランティアの紹介

代読サービス　加藤 忠司

◆対面朗読サービス

図書館 1 階(総合カウンターの隣)に対面朗読室が 2 室あり、そこで視覚障害の方等に対面朗読サービスを行っている。

対面朗読を依頼される方には二つのタイプがある。一つは、はり・灸・マッサージを生業とする方が、本業の治療に修得した知識・技術を再確認するために、持参の専門書や新しい知識を習得するための書物の代読を依頼するタイプ。他の一つは、依頼者がラジオ、テレビ、知人の話等で話題になった文芸書、評論、エッセー等の朗読を依頼されるタイプである。

最近朗読を依頼された図書は、専門書は別にして次のような図書である。

「源氏物語」「伊勢物語」「徳川光圀」「ウズベキスタンの桜」「不都合な真実」「明日香ちゃんの心臓」「あの戦争から遠く離れて」「真珠湾攻撃総隊長の回想」

9 これからの行事案内

児童サービス研修会	10 月 4 日(土)
読書フェスティバル	10 月 26 日(日)
代読サービス研修会	11 月 13 日(木)
かがやき第１７号発行	12 月中
ボランティア全体研修会	2 月中

編 集 後 記

大雨による災害が度々報道されました。洪水･土砂崩れ・地滑りなど自然災害は元をたどれば人災ではないでしょうか？人間は金儲けのために必要以上に樹木を伐採し、山を削り、地面をコンクリートで固め、生態系は崩されてしまいました。私たちはこの辺で、本気になって「物の豊かさ」よりも「心の豊かさ」を考えるべきと思います。

「かがやき」第 16 号をお届けします。楽しく読んでいただきたいと思います。今後、予定されているフェスティバルや研修会に参加し、感想やボランテイア活動での声をお書きになり、沢山、投稿をお寄せください。お待ち申し上げます。

〔広報　仲田 昭子〕